

第5学年 社会科・総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市立あやの台小学校

中谷栄作

1 単元名

ただ悪いと決めつけていいのかな～公害問題を徹底リポート～

2 単元目標

- ・我が国の国土と環境について、公害が国民の健康や生活環境に及ぼす影響、公害の防止や生活環境の改善などの取組に見られる人々の努力などを切り口にして、現状を知ることができる。
- ・物事を多面的総合的にとらえ、土地開発や工業の発展と環境問題の相関性について考え、自分の身の回りの環境は自分たちで守っていこうとする態度を養う。
- ・開発に伴う環境問題や、人々に有害な影響を及ぼす公害について、聞き取りやインターネット、地図や地球儀、統計などの資料から調べて考えたことを、自分の言葉で表現することができる。

3 評価規準

(ア) 知識 技能	(イ) 思考 判断 表現	(ウ) 主体的に取り組む態度
開発に伴う環境問題や人々に有害な影響を及ぼす公害など、国土の開発が国民の生活や産業の発達と密接な関連があることを理解している。	開発に伴う環境問題や、人々に有害な影響を及ぼす公害について、一方的に開発側が悪だと決めつけず、多面的にとらえることで、開発の必要性和環境問題の相関性から、これからの環境と生活の守り方について、自分の言葉で表現している。	ロールプレイに向けて調べ学習や聞き取り学習を追究している。 国土の環境保全の重要性について関心を高め、協力しようとしている。

4 教材について

本単元では、四大公害病を題材に学んでいく。ともすれば「工場が悪い」で終わってしまうこの問題を、生活水準の向上に向けての取組による不可抗力でもあったことを認識させることで、「開発か、環境保全か」という学習の中心となる対立軸をつくり、そこから学ばせる。インターネットでも豊富に資料があるため、子ども達の調べ学習も行いやすいところが利点である。

5 児童について

本学級では、4月から地球温暖化を中心とする環境問題について教科横断的に学び続けている。また、難民問題や児童労働問題についても学び、日本の生活が当たり前で無いことも学んでいる。そうした取組を経て、何事にも関心をもって調べ考える姿勢が育ってきているが、感情的で短絡的な結論づけをすることで課題がある。

国語科「想像力のスイッチを入れよう」において、物事の裏側について考えることの重要性と有用性について学んだ子ども達に、他教科で「スイッチを入れてみよう」と投げかけると、様々な考えが出てくるようになってきた。

6 指導について

前述した対立軸を中心にて、開発と公害、生活水準の向上と健康被害について、常に話し合いのある授業展開を行う。話し合いについては、ロールプレイを取り入れて、立場を設定して議論するようにし、学びを深められるように留意する。

ただ「公害被害者の気持ちを軽視した理解」で終わることは良くないので、資料を読んだり、体験者の話を聞かせてもらったりすることで、当事者の気持ちになりきりやすくする。企業側になりきるときは、社会見学で花王の洗剤工場で学習していることを生かし、企業側の努力も確かにあることを、ロールプレイでなりきるときの一助にした。



7 ESDの観点

・公平性（システムズシンキング）

開発は世代内の公平を生み出すために、環境保全は世代間の公平を生み出すために必要なものである。工業生産を多様な方面から考えることで、それが包含する多様な価値とマイナス面に気付き、総合的に考える。

・多面性（クリティカルシンキング）

開発を進める側には「生活を向上したい」という思いが、健康被害を受けた側には「生命を守りたい」という思いが、健康被害を受けていない側には「このまま開発を進めてほしい」という思いが、それぞれにある。（発展と環境破壊、雇用の創出）

・責任性

環境問題は遠い世界で起こっているものではなく、生産と消費を激しく行っている日本に住む自分たちの生活が大きく関わっている。

8 単元の展開（全11時間中、社会科8時間、総合3時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価
1	(総) これまでの環境学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生活の仕方が大きく環境破壊に関わっていることを認識させる。 ・今まで調べた事例が海外のものが多いことに気付かせる。 	ウ
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 日本には環境問題がなかったのだろうか </div>			
2	(社) 公害問題について調べる	インターネットや書籍資料で調べる際に、調べやすいように整理しておく。衝撃的な写真を見つける場合もあるので、前もって障害が出たり、ひどい症状が出たりした事例があることを十分に説明し、差別的な発言が会話のないように留意する。	ウ
3	(社) 公害病について調べる		ウ
4	(社) 4大公害病について、調べたこと、考えたことについて意見を交わす		「開発か、環境か」の対立軸が起こりやすいように、子どもの発言を2極にして板書していく。
5	(社) 「公害が起こった村」というロールプレイを行う	役割になりきった上での感情的な発言は認めていくことで、リアリティを出していく。 村人の生活水準が向上したこと 工場も村長も善意があって開発を推し進めたことが分かるようにする。	イ ウ
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 公害問題を、工場側が悪い、で終わらせていいのかな？ </div>			
6	(総) これまでの環境学習をまとめる	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> いろんな企業がエコをしよう、未来を守ろうと真剣なのはもしかしてもっと深い理由があるのかもしれないな </div>	ア

7	(社) 公害病にあった人から聞き取りをする	公害病の苦しみが病院で治療出来るような健康被害だけに留まらないことを知る。 当時の生活水準についても具体的に想像させる。	ア
8	(社) 過去の資料を見る	橋本市でも、ゴミの焼却によりダイオキシンが多く発生した事実についても知らせ、課題意識をさらに高めさせる。	ア
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>開発で便利にするか、環境に配慮していくか、それぞれの立場で言い分があり、どちらもよく分かるぞ。 本当の問題は、ちゃんと話し合っていないことのようなのだ。</p> </div>			
9	(社) ロールプレイを再度行う	それぞれの立場を「理解し合う」ことを大切にロールプレイを行い、全ての立場の人が納得できる解決案を導き出させる。	イ ウ
10	(社) 学びを振り返り、レポートを作成する	新聞記者になったつもりで、できるだけ客観的に書かせる。	イ
11	(総) 行政、地域、企業に向けて、レポートを提出する	できれば手渡しをし、その場でコメントをもらうようにする。	ウ

9 成果と課題

立場を変えながら学習を進めたことで他者の意見を、その人の立場に立って聞くことのできるよさを感じてきた児童が多く、聞き方や反応の仕方が今までよりもずっとよくなった。

また、課題にしていたすぐに結論を決めつけてしまうところも、意見交換を通してどんどん深化・変容させられる柔軟性が見えるようになった。社会科としての学習内容の定着に加え学習姿勢の向上にもつなげられたことも成果ではあるが、最も大きな成果は子ども達で地域を巻き込んでゴミ拾いを始めたことである。

課題としては、その活動を持続させられるかどうか、ということと、今回の実践で出来なかった当事者からの聞き取りとレポート提出先の確保をどう行っていくか、ということが挙げられる。



↑ 第二回ゴミ拾い後の集合写真